

令和5年度 美作市立作東中学校 学校評価書												
学校教育目標		「自らの考えを持ち、他者と協働し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～本気・笑顔・輝き～」			評価基準				総合評価（学校評価委員会）			
教育方針（三力精神）		・ 気力（自主的に学習し、行動に勇氣と責任を持ち、何事にもねばり強くやりぬく生徒の育成） ・ 体力（勤労を尊び、スポーツに親しみ、心身ともにたくましい生徒の育成） ・ 協力（自分をよく見つめ、他人を理解して、だれとでも仲良くできる生徒の育成）							A	各重点目標とも概ね、高い評価となっている。生徒は落ち着いた学校生活を送れ、生徒会活動や学校行事など意欲的に取り組むことができている。また学習面において、授業規律に気をつけ、協同学習に興味を持ち、学ぼうとする生徒が多い。ただ自主的に予備学習をしたり、探究的に課題に取り組もうとする生徒は少なく、授業の中で積極性に欠ける面もある。生活面では与えられた仕事、役割など責任をもって行う生徒も多い。これからも賞賛や褒め称えるなど生徒に寄り添った指導を心がけ、自己肯定感の高揚に努めたい。		
重点目標	方策	具体的評価規準（教員）		評価		具体的評価規準（生徒・保護者）		評価		重点目標総合評価	重点目標の達成状況と次年度に向けての改善点	
確かな学力の育成	授業規律の定着	けじめのある授業前後の挨拶と返事ができるようにさせる。		100	A	【授】「集中して授業に参加している。」	94	A	A	年度始めはまだコロナ禍の影響が残っていたが、生徒は授業に集中することを意識して取り組んでいた。「授業前後のあいさつや返事」は環境と共に心も落ち着かせて授業に取り組むことを浸透させたと感じる。「授業規律の徹底」は落ち着いた授業づくりの観点からも大切なことで今後も続けていきたい。発表や返事の声の大きさが気になる生徒がおり、全体で共有したい。		
		私語や手悪さがないようにさせる。		80	B					昨年度とほぼ同じ数値である。授業を組み立てる上で「めあて」「まとめ」の確認は大切なことであり、生徒にとっても学習習慣の意識付けにも必要である。「まとめ」の活動として全体での発表や授業の振り返りと共にプリント記入をすることで役に立っていると答えた生徒も多い。		
		忘れ物がないようにさせる。		90	A					「聴く 考える 伝える」について生徒も教員も意識した授業づくりに取り組んでいた。その中でも「伝える」について、授業のまとめや振り返りの部分で自分で表現したり、発表することでその達成をめざした。ペアでは気軽に発表し合えたようだが、全体の場で発表したという数値は半数以下で、今後の課題としたい。		
	めあてとまとめを意識した授業	「めあて」により意欲と見通しをもたせ、「まとめ」で定着をはかる。		90	A	【授】「授業のはじめに学習のめあてが示され、学習しやすい。」	94	A		各教科、学年でばらつきはあるが、ほぼ7割以上の生徒が肯定的な回答をしている。「主体的、対話的な深い学び」をテーマに協同学習や時には一斉授業の形式をとっているが、教える内容によってどのようなスタイルが効果的か、今後も授業づくりの工夫に力を入れていきたい。		
						【授】「授業の終わりに学習のまとめがあり、理解が深まる。」	85	A		定期テスト前の意識付けや自主学習の習慣化をねらいとして取り組んだ。地域の学習支援員の方の協力もあり、有効な取組と感じている。		
		関わり合い深め合える授業	生徒が自分の考えがもてるよう時間を確保し、発問を工夫する。		90	A	【授】「授業では、先生や友だちの話をよく聴き、自分の考えをもち、それを人に伝えることを意識している。」	88		A	今年度から定期テストの教科数の変更や単元テストの実施により、より個人でテスト前の学習計画に力を入れるかが、焦点になっていた。数値としては9割近くが肯定的であるが、生徒各自で取組の振り返りが必要に感じられる。また提出物についても個人差がはっきりしており、その意識付けが来年度も課題である。	
	友だちの考えに対して意見を言わせる。		90	A	「自分は人の役に立っていると思う。」と答えた生徒は昨年より11％増えたが、全体の数値としては決して高くない。教員は普段の学校生活から考えると、もっと数値が高くて良いのでは・・・と感じている。「先生は自分の気持ちを理解し、努力を認めてくれる。」についてはほぼ100％と高い数値になっている。教員間で賞賛や褒めたり、励ましたりする場面を積極的に持とうという意識が浸透していると考えられ、今後も実践していきたい。							
	協同的学習の場を設定し、高め合える授業の工夫をする。		90	A	昨年度はどの項目も80％未満でB評価だったが、今年度はどの項目も80％を超えている。日々の生活の中で目標を持つことは素晴らしいことであり、学校生活においても学校行事や生徒会・委員会活動に積極的に取り組むことを目標設定にしている生徒も多い。このような心がけが普段の取組につながっているのではないかと考えられる。今年度、生徒会で校則（頭髪等）について全校生徒にアンケートを取り、試行期間を設け、いくつか変更した点もある。自治的活動を進めるにあたって、問題点を洗い出し、改善の方向に導こうとする姿勢も見られた。							
	指導方法や指導体制の工夫による分かる授業	ユニバーサルデザインの観点から、板書の工夫、視覚教材やICTの活用等、授業の工夫をする。		100	A	【授】「授業の内容がよく分かる。」	86	A		今年度もこの項目は高い数値を残している。生徒会が中心となり、朝のあいさつ運動、靴揃えチェックを行い、自主活動として定着している。社会生活においても必要なことで、「当たり前前のことが当たり前前にできる」ことを今後も意識付けさせたい。		
		個に応じた質問時間を設けたり、机間指導をこまめに行うとともに、授業終了後、少し教室にとどまるなど、質問しやすい雰囲気をつくる。		80	B					「自分は人の役に立っていると思う。」と答えた生徒は昨年より11％増えたが、全体の数値としては決して高くない。教員は普段の学校生活から考えると、もっと数値が高くて良いのでは・・・と感じている。「先生は自分の気持ちを理解し、努力を認めてくれる。」についてはほぼ100％と高い数値になっている。教員間で賞賛や褒めたり、励ましたりする場面を積極的に持とうという意識が浸透していると考えられ、今後も実践していきたい。		
	補充教室の充実	集中した自主学習をさせるとともに、協同的な学習などを利用し、学び合い・高め合える工夫（予想問題作成など）をする。		80	B	【学】「テスト前の補充学習には積極的に取り組んでいる。」	96	A		昨年度はどの項目も80％未満でB評価だったが、今年度はどの項目も80％を超えている。日々の生活の中で目標を持つことは素晴らしいことであり、学校生活においても学校行事や生徒会・委員会活動に積極的に取り組むことを目標設定にしている生徒も多い。このような心がけが普段の取組につながっているのではないかと考えられる。今年度、生徒会で校則（頭髪等）について全校生徒にアンケートを取り、試行期間を設け、いくつか変更した点もある。自治的活動を進めるにあたって、問題点を洗い出し、改善の方向に導こうとする姿勢も見られた。		
	家庭学習の充実	家庭学習の計画を立てさせるとともに、途中での修正もできるよう声かけをする。		56	C	【学】「テスト前には、学習計画を立て、それに沿ってテスト勉強をしている。」	88	A		誰かが安心・安全に学校生活を送れることが一番大切なことだと考えている。そこには生徒同士の人間関係や教員との関わりが円滑であり、さらには家庭・地域との連携もその延長上にあると考えられる。今後も生徒指導体制や教育相談にも積極的に取り組み、生徒の普段の学校生活に寄り添った活動を進めていきたい。		
		年間の見通しをもつとともに、授業への繋がりを工夫した宿題（予習）を出す。		40	C	【授】「提出物や宿題をきちんと出せている。」	88	A		今後、大きな生徒数の変動はなく、各学年1クラスで推移していく。入学後はクラス替えもなく、固定化された人間関係が続くと予想される。「お互いの良いところを認め、お互いを大切にしている。」は9割近くの生徒が肯定的に捉えている。このことが、温かい人間関係を築く大前提であること捉え、人権意識の尊重もさらに意識付けさせたい。		
豊かな心と自主性の育成	あいさつ・返事・くつ揃えの習慣化	教員が率先して挨拶をするとともに、誰にでも進んで挨拶ができるようにさせる。		100	A	【学】「日々の生活の中で、挨拶・返事・靴揃えに心がけている。」	93	A	A	今年度もこの項目は高い数値を残している。生徒会が中心となり、朝のあいさつ運動、靴揃えチェックを行い、自主活動として定着している。社会生活においても必要なことで、「当たり前前のことが当たり前前にできる」ことを今後も意識付けさせたい。		
		くつ揃えなどの整理整頓が習慣化するようにさせる。		100	A	【保】「生徒は、挨拶、返事、履揃えを心がけている。」	87	A		「自分は人の役に立っていると思う。」と答えた生徒は昨年より11％増えたが、全体の数値としては決して高くない。教員は普段の学校生活から考えると、もっと数値が高くて良いのでは・・・と感じている。「先生は自分の気持ちを理解し、努力を認めてくれる。」についてはほぼ100％と高い数値になっている。教員間で賞賛や褒めたり、励ましたりする場面を積極的に持とうという意識が浸透していると考えられ、今後も実践していきたい。		
	よいところをほめ・励まし、達成感を感じさせる指導	一人ひとりの存在を大切にし、生徒が自己有用感を感じられる教育活動を工夫する。		100	A	【学】「自分は人の役に立っていると思う。」	67	B		昨年度はどの項目も80％未満でB評価だったが、今年度はどの項目も80％を超えている。日々の生活の中で目標を持つことは素晴らしいことであり、学校生活においても学校行事や生徒会・委員会活動に積極的に取り組むことを目標設定にしている生徒も多い。このような心がけが普段の取組につながっているのではないかと考えられる。今年度、生徒会で校則（頭髪等）について全校生徒にアンケートを取り、試行期間を設け、いくつか変更した点もある。自治的活動を進めるにあたって、問題点を洗い出し、改善の方向に導こうとする姿勢も見られた。		
		生徒に積極的に声かけを行うとともに、小さな成果を見逃さず褒め励ましていく。		100	A	【学】「先生は自分の気持ちを理解し、努力を認めてくれる。」 【保】「学校は、子供のことをよく理解し、努力したことを認めてくれる。」	98 87	A A		昨年度はどの項目も80％未満でB評価だったが、今年度はどの項目も80％を超えている。日々の生活の中で目標を持つことは素晴らしいことであり、学校生活においても学校行事や生徒会・委員会活動に積極的に取り組むことを目標設定にしている生徒も多い。このような心がけが普段の取組につながっているのではないかと考えられる。今年度、生徒会で校則（頭髪等）について全校生徒にアンケートを取り、試行期間を設け、いくつか変更した点もある。自治的活動を進めるにあたって、問題点を洗い出し、改善の方向に導こうとする姿勢も見られた。		
	自治的な集団づくり	目標（個人・学級・学年・生徒会）を設定し、それを達成しようとする中で、所属感や連帯感を深め、また生徒自ら学校生活を良くしていくとする積極的な態度を育てる。		100	A	【学】「日々、目標を持って生活している。」	94	A		誰かが安心・安全に学校生活を送れることが一番大切なことだと考えている。そこには生徒同士の人間関係や教員との関わりが円滑であり、さらには家庭・地域との連携もその延長上にあると考えられる。今後も生徒指導体制や教育相談にも積極的に取り組み、生徒の普段の学校生活に寄り添った活動を進めていきたい。		
		特別活動において、話し合い活動と「選択・決定・責任」という道筋を大切にする。		100	A	【学】「話し合いの時は自分の考えをもち、意欲的に参加している。」	90	A		今後、大きな生徒数の変動はなく、各学年1クラスで推移していく。入学後はクラス替えもなく、固定化された人間関係が続くと予想される。「お互いの良いところを認め、お互いを大切にしている。」は9割近くの生徒が肯定的に捉えている。このことが、温かい人間関係を築く大前提であること捉え、人権意識の尊重もさらに意識付けさせたい。		
		生徒会活動において、生徒ひとりひとりに参画意識をもたせ、行事等では自分たちで作り上げたという達成感を持たせる。		100	A	【学】「生徒会・委員会活動には積極的に参加・協力している。」 【保】「生徒は、生徒会・委員会活動に積極的に参加・協力している。」	87 81	A B		この項目の数値は昨年とほぼ同様である。スマートフォンの所持率も学年が上がると上昇しており、その使い方は家庭での判断や指導に委ねる部分が大い。学校内では今後もネットモラル等と合わせ、非行防止教室等の場面を設け、啓発にあたりたい。		
	いじめ、不登校を生まない指導	校内にいじめを許さない雰囲気をつくる。		100	A	【学】「学校では安心して過ごすことができる。」	89	A		「学校には相談できる先生がいる。」は昨年度より14％下がり、他の項目に比べ、低い値を示している。年間計画で定期的に教育相談週間を設けたり、普段の生徒の様子に注視するよう、共通理解をしているところである。さらに生徒との距離感等を工夫しながら、信頼関係を高める取組を進めたい。		
		家庭と連携し、学校に来づらい生徒の対応に力を入れている。		100	A					今年度、部活動の加入率は73％である。学校外の活動に参加している生徒も増えているようだ。部活動に加入している生徒で積極的に取り組む生徒も少なくない。今後、部活動の地域移行に向けてどのような方向に進むのか、注視していきたい。		
		日々、生徒の身体面、行動面、精神面からのサインをキャッチする努力をすると共に、教職員間での情報交換を密にする。		100	A							
健康・安全と体力の向上	共感的な人間関係づくり	友達の良いところを認め合う場をできるだけ多く意図的に設定する。		100	A	【学】「お互いの良いところを認め、お互いを大切にしている。」	88	A	B	今後、大きな生徒数の変動はなく、各学年1クラスで推移していく。入学後はクラス替えもなく、固定化された人間関係が続くと予想される。「お互いの良いところを認め、お互いを大切にしている。」は9割近くの生徒が肯定的に捉えている。このことが、温かい人間関係を築く大前提であること捉え、人権意識の尊重もさらに意識付けさせたい。		
		言語環境を整え、日々の生活の中で相手の気持ちを考えた言葉遣いを意識させる。		100	A	【学】「日々の生活の中で、相手の気持ちを考えた言葉遣いを意識している。」	74	B		この項目の数値は昨年とほぼ同様である。スマートフォンの所持率も学年が上がると上昇しており、その使い方は家庭での判断や指導に委ねる部分が大い。学校内では今後もネットモラル等と合わせ、非行防止教室等の場面を設け、啓発にあたりたい。		
	SNSへの対応促進	SNSの適切な利用について、生徒自ら考える場を設定している。		70	B	【学】「スマートフォンなど通信機器を約束守って使っている。」	85	B		「学校には相談できる先生がいる。」は昨年度より14％下がり、他の項目に比べ、低い値を示している。年間計画で定期的に教育相談週間を設けたり、普段の生徒の様子に注視するよう、共通理解をしているところである。さらに生徒との距離感等を工夫しながら、信頼関係を高める取組を進めたい。		
		SNSに潜む危険性を保護者へ啓発をし、スマホ等の保護者管理を推進している。		40	C	【保】「家庭では、スマートフォン等通信機器の利用し付いて、保護者が適切に管理できている。」	70	B		今年度、部活動の加入率は73％である。学校外の活動に参加している生徒も増えているようだ。部活動に加入している生徒で積極的に取り組む生徒も少なくない。今後、部活動の地域移行に向けてどのような方向に進むのか、注視していきたい。		
	教育相談活動の充実	授業間などを利用し、教室・廊下などで生徒の様子を観察・声かけをし、日頃から人間関係をつくる努力をする。		100	A	【学】「学校には相談できる先生がいる。」	65	B				
		教育相談週間を設定し、外部機関との連携をしつつ、個々の生徒理解に努める。		100	A	【保】「学校は、子どものことについて相談しやすい。」	91	A				
	部活動の充実	部活動は生徒の主体的な活動になっている。		100	A	【学】「部活動には積極的に参加でき、充実している。」	87	A				
		部活動では、技術だけでなく、あいさつやマナーなどの指導もあわせて行っている。		100	A	【保】「生徒は、部活動に積極的に参加している。」	94	A				